

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200529		
法人名	社会福祉法人 薫風会		
事業所名	グループホーム こもれび ( 1階 )		
所在地	岡山県倉敷市水島北幸町4番5号		
自己評価作成日	平成 25 年 7 月 25 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=3390200529-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd">http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=3390200529-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 25 年 9 月 6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気大切にしています。家事(掃除、洗濯)などは積極的に手伝ってもらえるよう支援しています。食事は週2回メニューを考え、買い物に行き、協力して作れるようにしています。天気の良い日には外出できるよう支援し、散歩や花の世話をしてもらっています。毎月誕生日には、ささやかなお祝いをしています。毎月、季節の行事も企画しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

『こもれび』という名前に負けないように温かい光で利用者を包み込む支援を目指しているという管理者の言葉が印象に残っている。また、その実現のためにも理念に基づいた月間目標を作成し、一つずつ達成していくことで職員が一丸となり質の高いサービス提供に努めている。4月より、【1日の振り返り】として職員同士で反省会とともに、『良いところ探し』をし、お互いに伝えあう時間を設けている。こうした取り組みにより、一人一人の職員がよりポジティブな考え方が持てるようになってきている。避難訓練は毎月実施し、同敷地内の事業所と合同で行うこともある。訓練中に何か課題が見つければ皆でしっかりと話し合い、解決策を見出し出している。また、法人内の事業所同士の連携がしっかりとできている。看護師やケアマネージャーなど専門職に相談したり、一緒に話し合ったりする機会を作ることで、いろいろな視点から利用者にとってよりよい支援を考え、提供できるよう取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果（1階ユニット）

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念に基づき、ユニット共通の目標を立て職員間にて共有している。理解しにくいところは確認している。	理念やケア方針を事務所にいつでも見えるよう、事務所に掲示している。また、理念に基づいた目標を作成し、申し送りの時間に読むことで頭に入れ、常に意識した支援ができるよう心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に1回、交流会に参加している。ボランティア、地域の学生さん達と交流している。	事業所の周辺には住宅は少ないが、隣に中学校や大きな公園があり、いつでも人が感じられる場所である。中学生がベランダから手を振ってくれたり、慰問にきてくれたりもしており、交流もある。オカリナの先生などボランティアの慰問も多い。支所で開催した展示会に利用者の作品を展示し、みんなで見に行ったこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩の途中などに地域の方々や顔なじみになるように声かけをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では現状取り組み、行事などの報告し、意見交換を行い、サービスの質の向上に務めている。	2ヶ月に1回、定期的開催している。家族や民生委員、地域包括支援センター職員、倉敷市介護保険課、他のGH職員などが参加している。参加者より、いろいろな意見があり、活かせるよう検討している。津波など水害に対する避難訓練を一緒にしたりもしている。	運営推進会議の参加メンバーが固定化されてきたように感じます。参加者として中学校の先生や郵便局職員など、いろいろな可能性を検討して頂き、より多方面からの意見を頂く機会となることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点は連絡している。もっと積極的に相談をしていきたい。	運営推進会議を中心に連携を図っている。分からないことがあれば、その都度連絡し、訪ねている。介護相談員が月1回、2時間程度訪問してくれ、利用者と一緒に話をしたり、手作業をしたりして過ごしている。職員も気が引き締まる機会となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	unnecessary 身体拘束は行わないようにしている。研修を行い、職員間で周知徹底している。	今、現在対象者はいない。玄関の施錠は利用者の様子を見て対応しているが、職員の見守りがあるときにはできるだけ開けている。身体拘束は絶対にしないという前提のもと、必要な事例があっても職員でいろいろな方法を話し合い、乗り越えている。身体拘束に関する研修も実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い、虐待のないよう指導している。職員のストレスにも注意するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度に対する一通りの知識はあるが、職員の研修が不十分であり、今後の課題である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には説明を行い、家族の理解、納得を頂き、不安を取りのぞいてから契約してもらるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を設けて、意見が言えるようにしている。また、国保連への連絡方法を掲示している。寄せられた意見は真摯に受け止め、対応している。	面会の際、意見や要望を職員に直接話してくれることが多い。挙げた意見はできるだけ早期に解決できるよう、施設長に報告し、検討している。運営推進会議に参加できない家族にはきちんと報告をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にケアカンファレンスを行っている。その場で困っていること、統一したケアを行うために大切な事を話し合い、質の向上に努めている。	月1回、ケアカンファレンスを実施し、職員が意見や提案を言える機会を設けている。外食支援や花を植える等の企画も職員から提案されている。また、4月より「一日の振り返り」として職員同士で良いところ探しをし、お互いに伝えあうようにし、関係作りに繋がっている。	『良いところ探し』を職員同士で行っていると聞き、とても素敵だと感じました。職員の笑顔が利用者の笑顔に繋がると思っています。今後も継続していただき、よりよい支援につながる事を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に個別面談を行い、労働条件について要望、不満を聞き、働きやすい職場になるよう努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加している。事業所内でも研修参加の機会を設け、スキルアップを図れるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の運営推進会議に参加し、情報交換を行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望は確認している。認知症が重度であり、意思疎通が難しくなっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に困っていること、要望を聞くようにしている。細目に家族と連絡を取り、要望の確認をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームの生活に慣れてもらえるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来るだけ入居者と一緒に行うようにしている。自分でできることは自分でしてもらうようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の参加できる行事を企画し、参加してもらえるよう声かけをしている。日用品は可能な限り、持って来てもらって、面会の機会を増やしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の人や知人が面会に来られる人もいる。今後も続けて来てもらえるよう声をかけている。	お正月には家族に向けて年賀状を出すようにしている。また、今年は初めて地元の小さな神社に初詣に行き、たき火にあたり、利用者もとても喜ばれていた。馴染みのある地元との繋がりや本人の好きな事を大切にしたい支援をしていきたいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、リビングの席は決めている。なじめない入居者もいるので、職員が間に入ったり、1人での空間をすごせるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	薫風会のグループ内で多様なサービスを提供できるよう支援を行い、継続した関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向にそってケアを行うように支援している。	部屋の片づけや誕生日会、アセスメントなど担当職員が中心となり本人の思いや意向を聞き、行っている。その際、『私の姿と気持ちシート』を活用し、本人の気持ちを把握するよう努めている。家族にはアンケートを実施し、意向を聞くようにしているが、現状維持を願う家族が多い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から情報を聞き、生活の会話の中からも生活歴を知ることが出来る。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録をこまめに記入し、個別の生活状態を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員同士での話し合いを行い、介護計画を作成している。	担当職員が原案を作成し、ケアカンファレンスにて意見交換をした後、最終的にケアマネージャーが介護計画を作成している。主治医や同法人の栄養士、看護師など専門職からの意見を聞き、反映するように努めている。	モニタリングを毎日行っており、日常生活の中で職員が介護計画を意識した支援を行っていることが分かる。また、『私の姿と気持ちシート』の活用からも利用者に真摯に向き合っていることが感じられる。今後も継続して頂くことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録をこまめに行い、連絡ノートの活用、情報を共有し、実践や介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状のできる範囲で柔軟に対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握はしているが、町内会などがないため、地域との協働は難しい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院と連携をとり、適切な医療が受けられている。月に1～2回、往診をしてもらっている。	協力医療機関より月2回往診があり、診察を受けている。協力医療機関以外の病院への受診は基本的に家族にお願いしている。夜間や緊急時など24時間体制で連携を図っている。また、入退院の際も法人内で連携を図り、対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員はいない。協力病院の看護師へ相談を行い、受診の指示を受けるようにしてもらっている。医療面での相談にのってもらい、説明も協力してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日常的に地域連携室のワーカーや看護師と連携を図り、入退院時はスムーズに対応出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	行っていないが、介護医療の必要性が高まった場合は、法人内の事業所で対応してもらえるよう調整している。	看取り支援は行っていない。入居時に家族に説明し、同時に特養ホームに申し込む等してもらっている。また、同法人内に特養ホームがあるため、重度化に伴い、転居される場合も多い。AEDや救命救急法など急変時対応について研修を行い、いざという時に備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作成している。定期的に訓練を行い、対応方法を職員に徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練、避難訓練は職員、入居者で参加し、避難経路や方法を訓練している。スプリンクラーや防火設備も整えている。	今年6月より、毎月避難訓練を実施している。同敷地内の職員も参加し、合同で実施している。災害が起こった時の行うべきことの流れや避難誘導などについて確認している。水害に対する避難訓練も実施している。	毎月避難訓練を実施することで、より安全な災害対策が進んでいると感じました。地震に対する対策をこれから検討すると伺いました。多方面からの意見を聞き、利用者の安全に向けて検討して頂くことを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の人格を尊重するよう丁寧な言葉かけを心がけている。	利用者の意思を尊重し、ある程度の距離を保ちながら支援をするよう心がけている。接遇マナーや言葉遣いについて研修を行っている。実習生を多く受け入れていることもあり、職員自身が見られる立場にあることを認識し、支援を行うように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人のペースを大切にし、何が希望か出来る限り自己決定できるよう声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切にその人らしく、気持ちよく過ごせるよう、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の好みを尊重している。行事などにはおしゃれをする楽しみを味わえるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食、リビングにて食事摂取することが習慣になっている。週2回、職員と一緒に作ることもある。片付けも無理のない範囲で手伝っている。	通常は業者に委託しているが、土日の週2日は手作りの食事を提供している。その際は利用者にも食材を切ってもらうなどお手伝いもしてもらっている。給食会議があり、味やメニューの好みなど利用者の意見を伝えている。職員も一緒に食べる事で一家団欒の雰囲気も感じられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記録、食間の水分補給も1日1500ccを目標に行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の状態に合わせて介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の希望により排泄介助を行っている。出来るだけ自立に向けた支援をしている。	できるだけトイレへ誘導し、排泄できるよう支援している。夜間のみオシメを使用している方にも昼間はリハビリパンツに履き替えて頂き、トイレへ誘導している。利用者がごそごそしている時には「トイレに行ってみますか？」と声をかけ、自然な誘導を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を記録している。水分摂取を多くしたり、軽い運動をするよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は本人のペースにてゆっくり気分転換が図れるよう支援している。	週2～3回、入浴支援をしている。拒否される方には本人に合った声かけ、誘導をするが、どうしても無理な時には足浴や更衣のみ行う場合もある。無理強いはしていない。夜間浴についてグループホームだからできる支援と考え、希望があれば対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活習慣に合わせ、安心して休めるよう支援している。シーツ洗い、布団干しも行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局発行の説明書の確認をしている。薬もトレーに貼り付け、2人にて服薬前後確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自主的に役割をもって生活できるよう支援している(塗り絵、貼り絵)を取り入れて、生活してもらっている。月に2回、書道クラブにも参加している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買いものや散歩に外出できるよう支援している。家族も一緒に外出したり、協力してもらっている。	天気のいい日には朝、夕の散歩や買い物など外出するようにしている。お花見や初詣など季節の外出行事を企画し、家族も一緒に出かけることもあるが、日常的な1人ひとりの希望に添った外出支援はなかなか出来ないのが現状である。	管理者より個々の希望に添った外出支援をもっとしていきたいと伺いました。事業所専用の車がないことも実施に至らない要因の一つだと思われます。外出支援が気軽にできる環境作りに向けて検討を期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人的なお金を持っている入居者はいない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には随時対応している。電話がかかった時は取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、朝夕各所清掃、消毒を行っている。冷暖房完備、必要に応じて使用している。定期的に季節感のある掲示物を作成している。	ドアを開けると広いフロアが広がっている。整理整頓され、無駄な物がなく、すっきりしている印象である。トイレは3カ所あり、それぞれタイプが違い、使いやすい。職員が持ってきたお花を飾り、季節感も取り入れている。朝夕に清掃、消毒を行い、清潔感もある。	雑誌や歌本、塗り絵、パズルなど利用者が自分で選んで出し入れできるように収納を用意してはどうでしょうか。選ぶ自由もあり、自立支援にも繋がるのではないかと思います。検討を期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る席を決める事により、思い思いゆっくり過ごせるようになっている。また、自由にソファにてくつろいでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していた使い慣れたものを使用してもらっている。	ボランティアの方と一緒に作った折り紙の七福神や塗り絵、習字など利用者の作品が飾られ、それぞれの個性となっている。居室には備え付けはなく、ベッドやタンスなど自宅で使い慣れた物を持って来てもらっている。仏壇やテレビ、お花など持ち込みは自由である。担当職員が季節に合わせた居室となるよう整理をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりの状態を把握し、安全で可能な限り自立した生活が送れるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果( 2階ユニット )

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200529		
法人名	社会福祉法人 薫風会		
事業所名	グループホーム こもれび ( 2階 )		
所在地	岡山県倉敷市水島北幸町4番5号		
自己評価作成日	平成 25年 7月 25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。( ↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigvoCd=3390200529-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=">http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigvoCd=3390200529-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 25年 9月 6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(2階ユニット)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念に基づき、ユニット共通の目標を立て職員間にて共有している。理解しにくいところは確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に1回、交流会に参加している。ボランティア、地域の学生さん達と交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩の途中などに地域の方々と同様にふるまうようしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では現状、取り組み、行事などの報告し、意見交換を行い、サービスの質の向上に務めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と同様から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点は連絡している。もっと積極的に相談をしていきたい。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	不必要な身体拘束は行わないようにしている。研修を行い、職員間で周知徹底している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い、虐待のないよう指導している。職員のストレスにも注意するようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度に対する一通りの知識はあるが、職員の研修が不十分であり、今後の課題である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には説明を行い、家族の理解、納得を頂き、不安を取りのぞいてから契約してもらるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を設けて、意見が言えるようにしている。また、国保連への連絡方法を掲示している。寄せられた意見は真摯に受け止め、対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にケアカンファレンスを行っている。その場で困っていること、統一したケアを行うために大切な事を話し合い、質の向上に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に個別面談を行い、労働条件について要望、不満を聞き、働きやすい職場になるよう努力しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加している。事業所内でも研修参加の機会を設け、スキルアップを図れるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の運営推進会議に参加し、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	直接本人に聞くようにしているが、認知症が重度なため、聞き出すことは難しくなっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望に耳を傾け、出来るだけ信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時何を必要としているのか、職員間で話し合い、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事作業時、職員と共同で行うように努めている。得意な事は声かけを行い、こなしてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、電話連絡時などに本人の様子を伝え、家族からも情報をもらい、本人を支えていく。行事にも参加してもらえるよう声かけをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会や親戚と一緒に外出される方もいる。今後も続けてもらえるよう声をかけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を大切にし、リビングでの席に気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	薫風会のグループ内で多様なサービスを提供できるよう支援を行い、継続した関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望、意向は沿うように努めている。訴えが出来ない人は様子観察からニーズを導き出せるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のスタイルを保てるように、出来る限り崩さないよう、本人本位を心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴、生活記録を把握しながら、心身状態、個別の生活状態を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族に意見をいただき、職員間で話し合い、現状に即したプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録をこまめに行い、連絡ノートを活用、情報を共有し、実践や介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる範囲で柔軟に対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握はしているが、町内会などがないため、地域との協働は難しい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院と連携をとり、適切な医療が受けられている。月に1～2回、往診介助を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員はいない。協力病院の看護師へ相談を行い、受診の指示を受けるようにしてもらっている。医療面での相談にのってもらい、説明も協力してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日常的に地域連携室のワーカーや看護師と連携を図り、入退院時はスムーズに対応出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	行っていないが、介護医療の必要性が高まった場合は、法人内の事業所で対応してもらえるよう調整している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作成している。定期的に訓練を行い、対応方法を職員に徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練、避難訓練は職員、入居者で参加し、避難経路や方法を訓練している。スプリンクラーや防火設備も整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬と敬愛を持って対応するよう、また、丁寧な言葉かけを行うよう心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の度合いにより、難しいところもあるが、出来る範囲で自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどう過ごしたいのか希望にそえるよう努めている	1人ひとりのペースを大切に、その日をどう過ごしたいのか希望にそえるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の好みを尊重している。外出時は特に気を付け、おしゃれをする楽しみを味わえるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は毎食リビングにて食べることが習慣になっている。食事制限、食事形態の違う入居者の理解が困難である。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記録、食間の水分補給も1日1500ccを目標に行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の状態に合わせて介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人に了解を取りながら、個々の能力に合った支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を記録し、状態により腹部マッサージを行う。普段より体を動かす習慣ができるよう働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	業務上、時間、曜日は決めているが、入居者の希望があれば個別に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活習慣に合わせ、本人の意志を尊重し、安心してもらえるよう支援している。布団干しも行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医に尋ねたり、薬局の発行している説明書の確認をしている。血圧、排便状態を記録し、変化の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力にあわせた役割を持ってもらう。また、個人の楽しみを理解し、気分転換ができるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買いもの、外出に出かける等の可能な限りの支援を行っている。家族にも協力してもらい、外出、外泊できるよう、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人的なお金を持っている入居者はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には随時対応している。電話がかかった時は取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、朝夕各所清掃、消毒を行っている。換気もこまめに行っている。季節感が出るよう掲示物などには気を付け、音楽をかけ、居心地良く過ごせるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る席を決める事により、入居者同士馴染みの関係になり、会話が弾むようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していた使い慣れたものを使用してもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりの状態を把握し、安全で可能な限り自立した生活が送れるよう努めている。		